

EXPO ZARAGOZA 2008

【特集】

サラゴサ 水のある美しい夏

サラゴサ 万国博覧会

地中海の温暖な日差しを映して
光り輝くエプロー川の畔、
ピレネー山脈を背景にして
広がるサラゴサという
スペイン第五の都市がある。
この街ではこの夏、
水が美しいメロディを奏でている。



EXPO ZARA 2008

【特集】
サラゴサ万国博覧会



マスコットのフルービ



フルービの敵ネガス



「水の塔」



「水の塔」にある水をイメージした巨大オブジェ



「水の塔」に設けられた展示

「水の塔」 生命の源を展示

万博会場では、高さ76メートルのガラス

館は「水の塔」「橋パビリオン」「水族館」の三つが設置され、各建築の外形もユニークで創意に富み、水と関連している。そのうち、エプロー川に架かる上下2層の橋状「橋パビリオン」はイランの著名建築家、ザハ・ハディドが設計したもので、人の通路と展示会場を創意に富む設計で結んだ。ここでは、博覧会のテーマを基調に、水は唯一無二の資源であること、水資源の合理的利用及び水資源の未来などについて啓発的に水資源と人類の生存権を結びつけた展示が開示されている。今回の博覧会のために作られた淡水の「水族館」はヨーロッパ最大規模であり、水の景観をテーマに展示が行われている。来場者は地理的環境の異なる世界の5つの重要な河川、ナイル川、メコン川、アマゾン川、マレー・ダリリング川とエプロー川を旅しながら沿岸の風景を眺め、音、鳥の鳴き声、湿度、霧の変化などを通して異なった生態環境を体験することができる。約300種、5000体の水中の生物を60あまりのガラス展示容器で陳列し、ナイル川の巨大な鱉や鯨、淡水鰻、エプロー川のカワウソなどがおり、大量の亀や蛇やトカゲも展示されている。

「水の塔」の設計は非常にユニークである。内部には階層がなく、下層部は展示ホールで、天井部は展望台になっていて、壁沿いに螺旋状の歩道が設けられている。展示ホールの中心には一組の水を垂らす長いガラスの管が吊るされており、管に沿って巨大な円形水槽に落ちてくる水滴の音は快く響く。ホールの周りには視聴装置があり、大型スクリーンに各言語による「生命にとっての水」が繰り返し上演され、いろいろな水関連の映像番組が壁掛けテレビやフロアへの投影により放送されている。エスカレーターで3階程度の高さ上がると、上層部の展示ホールに入る。ここには高さ23メートルの「スプラッシュ」という巨大な彫塑がおかれ、まるで飛ばした水しぶきで、生命がわれらの星に来たことを示したようだ。照明の色彩変化により、彫塑

スペイン・サラゴサのエプロー川の畔。花火で彩られた夜空の下、美しい音楽やうっとりさせるダンスが繰り広げられ、川面に映し出された。三ヶ月にわたるスペイン・サラゴサ万国博覧会はこの幕を上げた。これは2005年12月に国際博覧会事務局（BIE）総会において正式に認定された初めての認定博覧会である。テーマは「水と持続可能な発展」。その愛称は、サラゴサの頭文字「Z」と水を意味する「H2O」を組み合わせて「ZH2O」。中国や日本を含む105の国と一部の国際組織がこの万博に参加し、地球温暖化問題が深刻化しつつある今、私たち人間が生きていく上で必要不可欠な「水」に関してさまざまな展示が行われている。ここでは、サラゴサの夏に湧き溢れる美しい水をレポートする。

かけがえのない水

スペイン最大の川、エプロー川沿いに設置されたサラゴサ万博の会場は25ヘクタールの展示エリアと120ヘクタールの「水公園」からなり、美しい景色が広がっている。水の持続可能な利用は生命を存続し、文明を発展させて自然空間を維持する重要な要素である。サラゴサ万博のテーマは「水と持続可能な発展」であり、サブテーマは「水

「限りある資源」「生命の源である水」「水のある風景」「水—人々をつなぐ要素」である。サラゴサ万博のシンボルマークとマスコットは数多くの応募から選出された。シンボルマークの「EXPO ZARAGOZA 2008」はスペインの国旗を現す青、赤、黄で彩られ、都市を象徴している。サラゴサ市の「Z」は水滴をイメージしてデザインされ、「EXPO ZARAGOZA 2008」との重なりにより都市と水の共生を表現している。カタルーニャ州在住のデザイナー、セルジ・ロペスが手がけたマスコットは「フルービー」といい、水の壺をモチーフにしたものである。陽気で、触れるものすべてを浄化する能力があるフルービーは、エプロー川の川辺に棲み、動く周囲に小さな水滴を落とす。彼には少し気難しい「ポー」という友人がいる。また、「ネガス」という水を吸収し、汚染する敵がいる。ネガスは水を得るほど強大になり、水を失うと弱体化する。フルービーはネガスに水を奪われた土地を回復することができ、会場内の建物や展示内容はすべて「水」にかかわるものだ。6つのテーマ別プラザが設けられ、それぞれ「水のインスピレーション」「水の脅威」「オイコス 水とエネルギー」「水と都市」「水の城」「共有資源としての水」と名づけられている。テーマ



中国館内の上海万博ディスプレイボード



中国館内のビデオ視聴装置



中国館内 ハンドメイド工芸品が販売されている



中華の知恵を表現する水時計 (ウォーターチャイム)



サラゴサ万博 中国館前

に幻想的な雲囲気をもたらしている。また、この上層展示ホール全体に天籟の妙音が響き渡り、聖なる雲囲気を漂わせている。ここからさらに上の展望台に上がるには、螺旋歩道を利用するしかない。数台のエレベーターが館内に設置されているが、身体障害者専用になっている。

螺旋歩道の全長は900メートル前後で、緩やかで歩きやすい。また上りと下りは分かれているように設計されているので、来場者の分流に効果的である。天井部に登りながら、いろんな角度から「スプラッシュ」を眺めることができ、違った視覚効果を楽しめる。歩道を一周することに、心臓の鼓動を聞く「生命の源」や水の感触を体験するウォーターベッド、円柱形の写真展などの小展示がある。独特の発想と精密な設計及び豊かな趣が通る人の足を止める。

天井部の大型展望台からは万博会場を一望できる。また、飲み物や食品や記念品の売店も設置されている。

中国館 中国の水の知恵を展示

中国館の展示面積は1200平方メートル。「人と水——調和への回帰」をテーマに、「水育中国」「水利中国」「水文中国」「人と水——調和への回帰」の4セクション

人の意志、知恵と力を物語っている。大自然が与えた試練に挑戦しつつ、中華文明を延々と繋いできた」と語る。展示においては、数多くの創意的な手法を採用している。たとえば、中国現存の最古の水利施設、都江堰の紹介では、見学者がティスプレーにタッチすると、中国古代衣装を身にまとう女性が唄（つちぶえ。古代の吹奏楽器の一種）を吹く映像が出てきて、吹き奏でる気流が都江堰の形を成したり、金魚鉢の形をしたタッチパネルに触れると小さな金魚が現れ、見学者の手の動きを追って水中で動くというものだ。テーマの水とマスコットを一体化し、遊び心がみなぎっている。

中国館はサラゴサ万博のもっとも人気のあるパビリオンのひとつで、開館二日目の来場者数は1万2千人に達した。中国館の入り口にある二つの巨大な「海宝」は、たくさん見学者、特に子どもを引き付けている。

上海万博 インフォメーション・デスクがオープン

中国館開館の翌日、上海万博インフォメーション・デスクが館内にオープンし、来場者に2010上海万博のプロモーションを始めた。

サラゴサ万博は2010年上海万博開

で構成し、双方向性放送システムやデジタル・シミュレーターなどのハイテク技術を利用し、5000年の文明をもつ中国の治水、用水の歴史や成果や経験を展示し、中国の水の知恵を示す。

中国館のシンボルマークは伝統の水模様と吉祥模様の組み合わせであり、マスコットは平和と幸せを象徴する金魚である。館内にさかさまにした円錐状の巨大なウォーターチャイムがおかれ、設計者はウォーターチャイムの使用材料に変化をつけ、上から下に中国が青銅器時代から現代社会へと発展してきた過程、水と中国文明の発生と発展との関係を表現し、中華民族の水の知恵を伝える。ウォーターチャイムの向かい側には、中国河川の地図が掛けられ、「水育」という展示セクションに、二万年前の水稲の種や水関連の記載がある甲骨文の破片複製品などの実物が陳列されている。

中国の水利の発展も中国館展示の重要な内容のひとつである。映像を通して、紀元前602年から1988年までの中国の水災害を振り返り、最後には青海省喇家の洪水でなくなった母子の遺骸の映像が流される。母親が腰を屈めて子どもをかばう姿は、水災害がもたらす被害を強く印象付け、見るものの涙を誘う。

中国館のデザイナー陶鴻氏は「中国の文明史は水災害との戦いの歴史でもある。中国のいたるところにある水利施設は中国催前の最後の万博であるため、当然のようにここは上海万博の海外宣伝の重要な窓口になる。このインフォメーション・デスクのスタッフはみな上海万博事務局のメンバーからなり、上海万博の宣伝以外に、サラゴサ万博の運営・管理経験を学び、サラゴサ万博の参加国105カ国と三つの国際組織の代表に上海万博の進捗状況を報告し、また上海万博の出展を促進するための会談などを行う。

インフォメーション・デスクの設置は国際博覧会事務局（BIE）とサラゴサ万博組織者から強いサポートを得ている。在スペイン中国大使館にも協力してもらい、サラゴサ大学に在学中の留学生7人を選任してボランティアとして参加してもらっている。これらの留学生たちは経済や法律などを専攻し、なかには5年以上も居住している人もいる。スペイン語を生かして上海万博の紹介・宣伝に貢献したいと彼らは願っている。また、上海からは59人のボランティアチームを結成し6回に分けてサラゴサでボランティア活動に参加し、見学に訪れている中国の観光客にサービスを提供している。

9月8日から14日にかけて、サラゴサでは上海万博プロモーションとして「上海ウィーク」を開催。多彩なパフォーマンスなどを繰り広げることで2年後の上海万博を紹介した。